

そう だい かみ ゆうじん
総 題 「神のためにたくさんの友人をつくる」

だいいつ か
第1課 なぜあかしなのか

さな だ おさむ
真田 治

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

わたし にんげん じぶん すく ねが わたし にんげん すく ねが
私たち人間は、自分を救ってほしいと願っています。しかし、私たち人間が「救ってほしい」と願うより
も、もっと強く、神さまは「人間を救いたい」と願っておられるのです。そして、人間を救うことは私たち
にんげん しごと かみ しごと わたし しごと にんげん すく かみ きょうりよく
人間の仕事ではなく、神さまの仕事です。私たちの仕事は、人間を救おうとしておられる神さまに協力する
ことです。

こんしゅう しゅ かんけい
今週のタイトルは「なぜあかしなのか」ですね。すべての「あかし」は主イエスさまに関係しています。あか
しは、イエスさまが私たちを救うためにしてくださったことを他の人々に伝えることです。あかしは、イエスさ
まが私たちの人生をどのように変えてくださったかを他の人々に伝えることです。人間を救うことは、私たち
のしごと かみ しごと た ひとびと かみ すく わたし
の仕事ではなく神さまの仕事です。しかし、他の人々が神さまによって救われやすくなるように、私たちはイエ
スさまのことを他の人々に「あかし」するのです。

わたし む ちい いっぱ ふ だ まえ わたし む おお ちか
私たちがイエスさまに向かって小さな一歩を踏み出す前に、イエスさまは私たちに向かって大きく近づいて
くださいました。私たちがイエスさまに背中を向けているときから、イエスさまは私たちに優しい顔を向けてく
ださいました。私たちはイエスさまのことをほとんど気にしませんでした、イエスさまは私たちのことを大切
おも き
に思っけて気にかけてくださったのです。

に にちようび すく きかい ていきょう
2. 日曜日：救いの機会を提供する

わたし みやぎけん せんだいきょうかい ぼくし みやぎけん じもと しんぶん かほくしんぼう かほく
私は宮城県の仙台教会で牧師をしています。宮城県の地元の新聞で『河北新報』というのがありますが、河北
しんぼう ことしごがつついたちごう つぎ とうこう の
新報の今年5月1日号に、次のような投稿が載っていました。

だいす やそう くき なが じゅう さんじゅう くき さき
「大好きな野草の1つにキュウリグサがあります。茎の長さは10～30センチ。茎の先は、ゼンマイのように
まる さき の つぎつぎ はな さ
丸まっていて、その先を伸ばしながら次々と花を咲かせます。

はな うつく に さん はな ごまい そらいろ はなびら はな ちゅうしん きいろ ろくがつ
その花がとても美しいです。2～3ミリの花で5枚の空色の花弁をつけます。花の中心が黄色です。6月ぐ
らいまで、その花を楽しませてくれます。

せいかにん みせさき なら はち う ふ と
生花店の店先に並ぶことなく、鉢に植えられることもないでしょう。踏んづけられたり、むしり取られたりする
しかないような小さな野草です。

てんち そうぞう かみ うつく よそお ちい はな あた まわ くさ かげ
天地を創造した神はなぜ、こんなにも美しい装いをこの小さな花に与えたのでしょうか。周りの草の陰にな

りながらも、毎年 美しく花を咲かせ、実をつけて、自然の片隅を構成しながら、日の光に輝いている姿に感動します。

このような光景を見ていると、こう思うのです。神はこの世界を、どんな人でも喜びを感じながら、幸せに生きることができる世界につくったのではないのでしょうか。」

新約聖書ローマ書 1 章 20 節には、「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません」と書いてあります。

ときどき「自分は神さまを信じない」という人がいます。しかし、先ほどの新聞に投稿した人が書いているように、小さくて美しい花を見ているだけでも、私たち人間は神さまのことを考えます。神さまは、人間が神さまを知ることができるように、世界を造られたのです。ローマ書 1 章 20 節に書いてある「彼らには弁解の余地がありません」の「彼ら」というのは、「自分は神さまを信じない」という人々のことです。自然世界を見ていると神さまのを知ることができるのですから、だれでも神さまを信じることができます。だから、神さまを信じない人々には弁解の余地がありません（信じない言い訳はできないはずです）。

しかし、自然世界を見るよりも、もっと分かりやすく神さまのことを知らせる方法があります。イエスさまのことを他の人々に伝えることです。イエスさまを伝えることは、他の人々が救われる一番いい方法です。自然世界を見るだけで神さまを信じるようになる人々もありますが、神さまを最もよく現しているのは、主イエスさまの愛なのです。

3. 月曜日：イエスを喜ばせる

ルカ福音書 1 5 章 7 節で、「言っておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある」とイエスさまは語っておられます。ルカ福音書 1 5 章 10 節では、「言っておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある」ともイエスさまは語っておられます。今まで神さまを信じていなかった人が神さまを信じるようになると、天使たちが喜びます。今まで神さまを信じていなかった人が神さまを信じるようになると、もちろん、イエスさまも喜ばれます。

ルカ福音書 1 9 章 10 節では、「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」とイエスさまが語っておられます。イエスさまが「人の子」と言われるときの「人の子」とは、イエスさま御自身のことです。イエスさまは、失われたものを捜して救うために来られたのです。

私たちが他の人々に向かって、「イエスさまは、あなたを捜して救うために来られたんですよ」と伝えるときにも、イエスさまも天使たちも喜んでくださいます。

4. 火曜日：与えることで成長する

新約聖書の使徒言行録 20 章 35 節には、「受けるよりは与えるほうが幸いである」と書いてあります。

自分で聖書を読んだり教えてもらったりしてイエスさまによる救いを受け取ることよりも、他の人々にイエスさまのことを伝えて救いを分け与えるほうが、私たちは幸せになれるのです。

もしも私たち人間がイエスさまのことを他の人々に伝えなくても、イエスさまは、御自分のことを御自分で人々に伝えることもできました。しかしイエスさまは、私たちがイエスさまのことを他の人々に伝えるよう、導いておられます。私たちは、他の人々にイエスさまを伝えたいときに、「どうやって伝えたら良いか、神さま、教えてください」と祈ります。どうやって伝えたら良いのかを、私たちは考えます。祈ったり考えたりしているとき、神さまは私たちを成長させてくださるのです。優しく、強く、知恵のある人に私たちがなるように、神さまは私たちを成長させてくださいます。

私たちがイエスさまのことを他の人々に伝える目的は、3つあります。

- ① 他の人々がイエスさまを信じるようになって救われるため。
- ② イエスさまが喜んでくださるため。
- ③ 私たちが成長するため。

今まで神さまを信じていなかった人が神さまを信じるようになると、イエスさまは喜ばれます。

今まで神さまを信じていなかった人が神さまを信じるようになると、私たちも喜びます。

私は、私が神さまを信じるようになったときよりも、他の人々が神さまを信じるようになったときのほうが、うれしかったです。私は、私がシバプテスマを受けたときよりも、他の人々がシバプテスマを受けたときのほうが、うれしかったです。ぜひ皆さんも、他の人々にイエスさまのことを伝えて、うれしい体験をしてください。

5. 水曜日：キリストの命令に従う

第一テモテ書2章4節には、「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」と書いてあります。すべての人々が救われることが、神さまの願いです。すべての人々が救われるために私たちが他の人々に神さまを伝えるよう、神さまは私たちを導いてくださっています。

今日のテーマは「キリストの命令に従う」ですね。「従う」と「ついて行く」と「導かれる」は、言葉は違いますが意味は同じです。神さまが前で、私たち人間が後ろ、という意味です。神さまが前から私たちを導いてくださるので、私たちは後ろから神さまについて行きます。むずかしいことでも神さまが前を歩いてくださいますから、私たちは後ろから従うことができます。2000年前、人々が救われるように、イエスさまは人々に神さまのことを伝えてくださいました。ルカ福音書19章10節で、「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」とイエスさまは語っておられます。「人の子」とうのはイエスさまのことです。だから私たちも、前を歩かれたイエスさまに導かれて、イエスさまについて行くことができます。イエスさまの命令に、私たちは従うことができます。「神さまのことを伝えなさい」という命令です。

皆さん、『カラダのトリセツ』健康トラクトというのを、知っていますか？ 新型コロナウイルスが流行し始めてから、セブンスデー・アドベンチスト教団が作ってくださったものです。免疫力を高めてウィルスに感染しづらい健康な体になるために、大切なことが書いてあります。それぞれの教会に置いてあると思います。もし置い

ていなければ、^{ぼくし}牧師さん^きに訊いてみてください。

私は、^{わたし}私が^{わたし}牧師^{ぼくし}をしている^{せんだいきょうかい}仙台教会^{みな}の皆さん^{てがみ}に手紙^かを書いて、^{てがみ}手紙^{いっしょ}と一緒に『カラダのトリセツ』健康^{けんこう}トラクトも^{ふうとう}封筒^いに入れて^{おく}送りました。その手紙^{てがみ}には「このトラクトを^{かぞく}家族^{ともだち}や^{わた}友達^{ひと}に渡したい人には、もっとたくさん差し上げますから、ご連絡^{れんらく}ください」と書いて^{おく}送ったのです。しかし、「もっとたくさんください」と自分^{じぶん}から連絡^{れんらく}してくださった教会^{きょうかい}員^{いん}さんは、1人^{ひとり}だけでした。その手紙^{てがみ}を書いた^か数週間^{すうしゅうかん}後の6月6日^{ろくがつむいか}(土)の礼拝^{れいはい}説教^{せつきょう}で、私は、^{つぎ}次のように「あかし」して^い言いました。「もうすぐイエスさまが来^こられます。早くイエスさまの^{はや}ことを^{つた}伝えなければなりません。この『カラダのトリセツ』健康^{けんこう}トラクトは、^よすごく良いです。ほとんどのページに^{からだ}体の健康^{けんこう}のことが書いてありますが、最後のページにはイエスさまの^しことを^{ほうほう}知る方法^かが書いてあります。『コロナウィルスに^{かんせん}感染しづらい免疫力^{めんえきりよく}の高い健康^{けんこう}な体^{からだ}になる^かコツが書いてある、教会^{きょうかい}のトラクトです。ぜひ^よ読んでください』と^い言って他の人^たに^{ひと}手渡^{てわた}すと、必ず^{かなら}受け取^うってください。イエスさまの^{つた}ことを伝えるために、このトラクトを^{くば}配ってください」。

手紙^{てがみ}を書いた^かただけだったら、1人^{ひとり}の人^{ひと}だけが「もっとたくさんください」と言われたのに、説教^{せつきょう}の中でイエスさまの^なことを「あかし」すると、たくさん^{きょうかい}の教会^{いん}員^{たち}さん達が、『カラダのトリセツ』健康^{けんこう}トラクトも^も持^{かえ}って帰^{かえ}ってくださいました。「あかし」には^{ちから}力^{ちから}があります。すべての「あかし」はイエスさまに^{かんけい}関係^{かんけい}あります。

また別の日^{べつ}には、東^{とう}京^{きょう}の病^{びょう}院^{いん}に入^{にゅう}院^{いん}しておられる教会^{きょうかい}員^{いん}さん^{とど}からハガキが^{とど}届きました。そのハガキには、コロナウィルス^{かんせん}感染^{よぼう}予防^{かぞく}のため、家族^{かぞく}も教会^{きょうかい}の人も^{ひと}見舞^{みま}いに来^きてくれないから^{ざんねん}残念^かだと書いてありました。そこで私は、その入^{にゅう}院^{いん}しておられる教会^{きょうかい}員^{いん}さんにも『カラダのトリセツ』健康^{けんこう}トラクト約20枚^{けんこう}を封筒^{ふうとう}に入れて^{おく}送^{おく}って、「病^{びょう}棟^{どう}の看護^{かんご}師^しさんや^{みな}スタッフの皆さんに、『新型^{しんがた}コロナウィルスに^{かんせん}感染^{めんえきりよく}しづらい免疫力^{たか}の高い健康^{けんこう}な体^{からだ}になる^かコツが書いてある、教会^{きょうかい}のトラクトです。ぜひ^よ読んでください』と^い言^てって手渡^{てわた}してください」と^{ねが}お願い^{ねが}したのです。すると約1週間^{やくいっしゅうかん}後、その入^{にゅう}院^{いん}しておられる教会^{きょうかい}員^{いん}さん^{ふた}から再^{とど}びハガキが^{とど}届いて、「〇〇さんの通^{かよ}って^{かよ}おられるセブンスデー・アドベンチスト教会^{きょうかい}は素晴らしい教会^{きょうかい}ですね」と看護^{かんご}師^しさん^ほから褒^ほめられたと、ハガキ^かに書いてありました。

イエスさまを^{つた}伝える方法^{ほうほう}は、たくさんあります。イエスさまを「あかし」する^{ほうほう}方法^{ほうほう}は、たくさんあります。^{みな}皆さんに宿^{しゅく}題^{だい}を出^だします。今日^{きょう}は水曜日^{すいようび}ですね。来^{らい}週^{しゅう}の水曜日^{すいようび}までの1週間^{いっしゅうかん}で、7人^{しちにん}の他^たの人^{ひと}々に、主^{しゅ}イエスさまの^{つた}ことを^{つた}伝えてください。トラクトやチラシを^{わた}渡^{わた}してもいいです。手話^{しゅわ}ができる人^{ひと}は手話^{しゅわ}で「イエスさまは私^{わたし}を救^{すく}ってくださいました。イエスさまはあなたが大好きです」と^だ伝えてもいいです。手話^{しゅわ}ができない人^{ひと}は、他^たの^{ほうほう}方法^{ほうほう}でもいいです。どんな方法^{てがみ}でもいいです。手紙^かを書いてもいいです。メールを^{おく}送^{おく}ってもいいです。来^{らい}週^{しゅう}までの1週間^{いっしゅうかん}で、7人^{しちにん}の他^たの人^{ひと}々にイエスさまの^{つた}ことを「あかし」してください。

6. 木曜日：愛による動機づけ

私^{わたし}たちが他^たの人^{ひと}々にイエスさまの^{もつと}ことを「あかし」する^{おお}最^{りゅう}も大^{あい}きな理^り由^{ゆう}は、愛^{あい}です。
第二^{だいに}コリント書^{しよごしやうじゅうよん}5章^{じゅうごせつ}14、15節^{つぎ}には、次のように^か書いてあります。「なぜなら、キリストの愛^{あい}がわたしたちを^か駆^たり立^たっているからです。わたしたちはこう^{かんが}考^{かんが}えます。すなわち、一人^{ひとり}の方^{かた}がすべての人^{ひと}のために死^しんでくださ

た以上、すべての人も死んだことになります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、
生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方の
ために生きることなのです。」

第二コリント書 5 章 1 4 節の中には、「キリストの愛がわたしたちを駆り立てている」と書いてありますね。
「駆り立てる」というのは、強い力で何かをさせる、という意味です。キリストの愛が強い力で私たちに何か
をさせるのです。その「何か」というのは、「自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活して
くださった方のために生きる」ことです。「自分たちのために死んで復活してくださった方」というのは、イエス・
キリストです。キリストの愛が強い力で私たちを動かし、私たちは自分自身のためではなくイエス・キリストの
ために生きようになるのです。イエス・キリストは私たちを愛して、私たちを救うために身代りに十字架にかか
って死んでくださいました。私たちを救うために身代りに十字架にかかって死んでくださったキリストの愛を知る
なら、強い力が私たちを動かして、私たちはイエス・キリストが喜ばれるように生きようになるのです。
月曜日にも学びましたが、イエスさまが喜ばれるのは、人々が神さまを信じて救われることです。そして、他
の人々が神さまを信じて救われるように私たちが神さまのことを他の人々に伝えることを、イエスさまは喜ん
でくださいます。イエス・キリストの愛を私たちが知ると、私たちは、他の人々にイエス・キリストのことを伝
えるように駆り立てられます。

7. 金曜日：さらなる研究

水曜日の学びの中で、仙台教会の皆さんに手紙を送ったことを書きましたね。コロナウィルスの感染予防のた
めに安息日の礼拝が休会になって、皆さんが教会に来ることができないので、4月は3回、5月も3回、手紙
を送ったのです。しかし、まだ神さまを信じていない人からも、「自分にも手紙を送ってほしい」と頼まれて、まだ
神さまを信じていない人にも送るようになりました。教会が休会になるのは残念なことです、まだ神さまを
信じていない人にもイエス・キリストのことを「あかし」できたことに、感謝いたしました。

木曜日に、新約聖書の第二コリント書 5 章 1 4 節に書いてある「キリストの愛がわたしたちを駆り立ててい
る」という聖句を学びました。「駆り立てる」というのは「強い力で何かをさせる」という意味でした。キリスト
の愛が、強い力で私を動かして、手紙を送らせたんだと思います。教会員の皆さんに手紙を送るだけではなく、
まだ神さまを信じていない人にも手紙を送るように、キリストの愛が私を駆り立てたんだと思います。

毎日お祈りして、聖書を読みましょう。神さまは強い力であなたを動かして、他の人々にイエス・キリストの
愛を「あかし」できるよう、あなたを駆り立ててくださいます。